

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 豊岡市

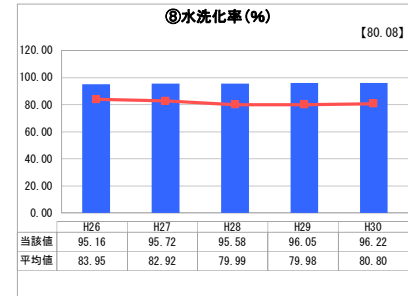
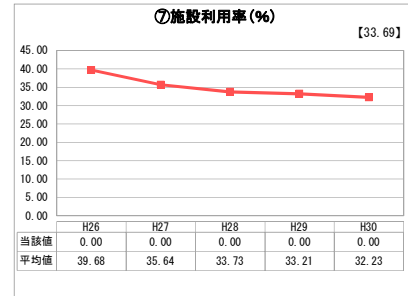
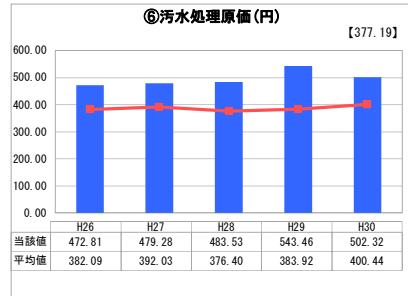
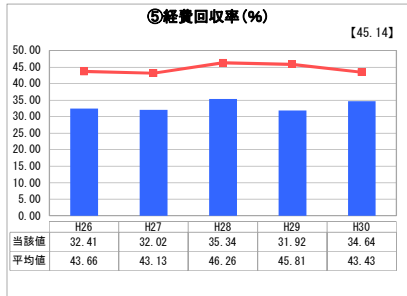
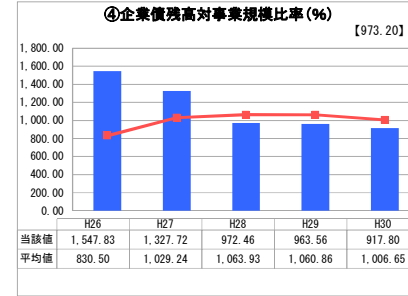
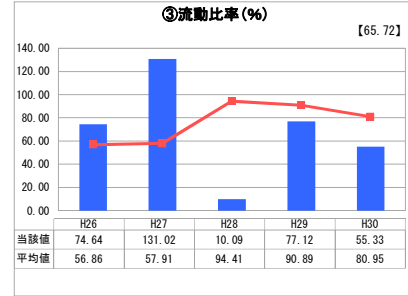
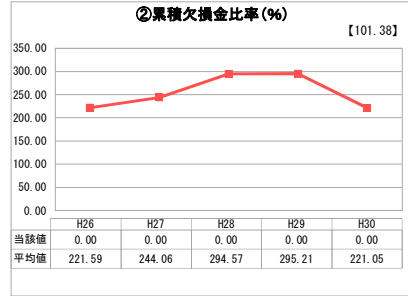
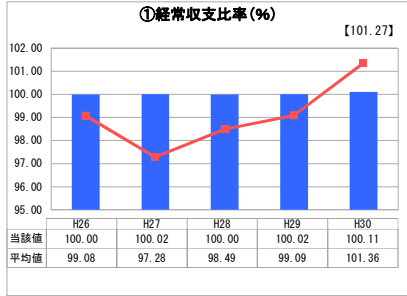
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	70.43	0.55	153.02	3,348

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
82,037	697.55	117.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
450	0.16	2,812.50

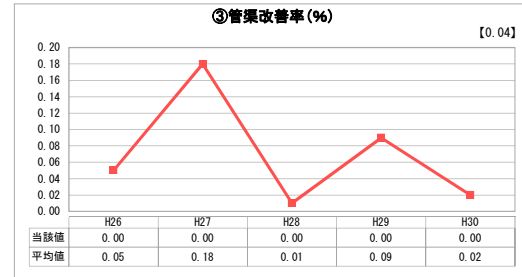
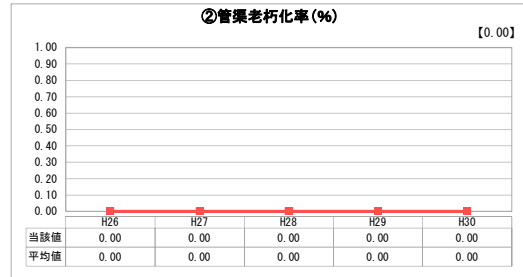
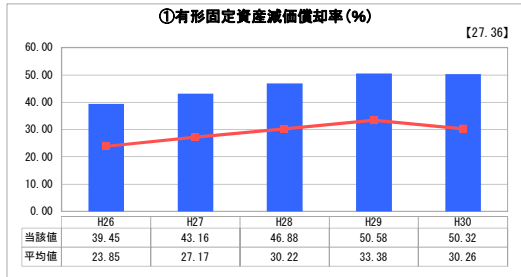
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

⑤経費回収率が低いのは、収益が一般会計からの繰入金に依存していること、汚水処理費が高いことが理由であり、⑥汚水処理原価についても同じことが言える。
③流動比率が低いのは、流動負債のうち企業債が占める割合が多いためである。関連して④企業債残高対事業規模比率についても多くなるが、使用料収入が増加したことで、改善が見られ、着実に企業債残高は減少している。

2. 老朽化の状況について

類似団体よりも償却率が高く、施設の老朽化が着実に進んでいる。
既存施設の老朽化が進行するなか、下水道処理区の統廃合、処理場の機能保全等を計画的に進めている。
統廃合される漁業集落排水事業の施設については、今後、施設の維持管理費の増加、下水道使用料の収入の減少が予想される状況において、処理場をポンプ場へと改築する。
また、統廃合されずに残る漁業集落排水施設については、機能保全を図り適正な規模の施設にしている。

全体総括

使用料収入だけでは経費を賅うことができておらず、依然として一般会計からの繰入金に依存しており、独立採算による経営ができていない。
また、汚水処理に係る費用が高いまま推移しているため、引き続き営業費用の削減に取り組む必要がある。
処理区の統廃合、施設の長寿命化を合理的、計画的に進めていき、効率的な業務を行うことが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。